

カリキュラム

機施設名： 沖縄職業能力開発促進センター
 実施機関名： 合同会社ヤオヨロズテック

A. バックオフィス	132 生成AIの活用
新技術活用	

コースのねらい	生成AIの概要とビジネスの現場における、具体的な活用シーン等について理解し、AIと協働することによる業務の質とスピードを高める技術を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
講義内容	1	■ 生成AIの概要	3.0
			<p>(1)生成AIで何ができるか【演習あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIが文章・画像・音声・コードなどを自動生成する仕組みを基礎から学びます。検索との違いや「予測モデル」としての特徴、ハルシネーション(事実誤答)など、初心者が知るべきポイントをわかりやすく整理します。また、入力の仕方によって結果が大きく変わるため、「良い質問の型」「意図を伝えるプロンプトの基本」を紹介し、AIと協働するための最低限のリテラシーを身につけます。 【演習】個人ワーク: 文章生成体験 AIに質問し、要約・翻訳・文案作成の違いを体験。 <p>(2)生成AI導入事例から学ぶ【演習あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務作業の効率化、問い合わせ対応、営業資料作成など具体例で活用イメージを掴みます。中小企業で広がる成功事例だけでなく、目的が曖昧なまま導入して失敗した例にも触れ、「どこに活用すれば効果が出やすいか」を理解します。 【演習】グループワーク: 活用事例の抽出 自部門の課題を出し合い、どこでAIを使えるか議論。 <p>(3)安全性と情報管理のポイント【演習あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AI利用の際に注意すべき情報管理を学びます。機密情報・個人情報を入力しない原則、無料版と企業向けサービスの違い、データ利用ポリシーの確認方法など、実務に直結する内容を扱います。また、誤情報・偏り(バイアス)の発生理由と対処法を身につけ、安全にAIを使う基礎を固めます。 【演習】ディスカッション: リスク整理 「入力してはいけない情報」を分類し理由を共有。 <p>(4)RAGとファインチューニングの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内文書を検索しながら回答精度を高めるRAGと、モデル自体を学習させるファインチューニングの違いをわかりやすく整理します。中小企業ではRAGが導入しやすいこと、ファインチューニングは固有名詞が多い業務に向くなど、目的に応じた使い分けを解説。実際に導入する際のデータ準備や注意点も理解します。
	2	■ 生成AIの活用事例と今後の展望	3.0
		<p>(1)中小企業で広がる生成AI活用動向【演習あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIが事務業務で大きな効果を発揮する「文書作成」「情報整理」「要約」「議事録」「問い合わせ対応」などの代表的な事例を学びます。特に、AIの「下書き生成」「表現改善」「ミス防止」「データ解釈サポート」は初心者でもすぐに使える領域です。中小企業の例として、企画書作成時間の短縮、FAQ対応の自動化、品質のばらつき削減なども紹介します。さらに、最新動向として、ファイル参照機能や音声入力、画像読み取りなどの“マルチモーダル化”に触れ、生成AIが「職場の副操縦士」として機能し始めている点を理解します。 【演習】個人ワーク: 業務文書改善 AIに書かせた文章と自分の文章を比較し、改善点を洗い出す。 <p>(2)生成AIによる業務プロセス改善の進め方【演習あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A業務フローの可視化から「AIをどこに組み込むと最も効果が出るか」を見つける方法を学びます。AIが得意な領域(検索・整理・要約・チェック・定型文生成)と不得意領域を整理し、自社の業務に落とし込む思考法を身につけます。導入ステップとして、①目的整理、②小さな範囲で試行、③効果検証、④標準化・全体展開の流れを紹介します。さらに、RAGを使った「社内文書検索の自動化」や、AIを組み込んだ「問い合わせ対応ミニチャットボット」など簡単に試せる応用例も軽く扱い、実践イメージをつかみます。 【演習】グループワーク: 業務棚卸し 1日の業務を棚卸しし、AIで改善できる工程を分類する。 <p>(3)未来のAI活用: AIエージェント・MCP・ロボット【演習あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の生成AI活用の方向性として、AIが「自律的にタスクを実行する」AIエージェントの登場、複数ツールを連携させてAIが環境を理解するMCP (Model Context Protocol)、そしてAI搭載ヒト型ロボットの進化などを紹介します。これにより、資料作成や分析だけでなく、「指示に基づいた自動処理」「物理作業の補助」「情報の自動取得」など、人とAIの協働範囲が広がります。中小企業でも、ミニRPA的な自動化、社内FAQ自動回答、受付ロボットなど、現実的な導入が始まっている点にも触れ、未来を見据えたAIリテラシーを育成します。 【演習】グループワーク: プロンプトコンテスト 生成AIを使って、お互いの強みを活かした新事業アイデアを3つ提案し、生成AIに評価させる。 	
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
<p>・生成AIの研修では、まず「なぜAIを学ぶのか」を理解してもらうことが重要です。人手不足や業務の属人化など日本の現状を示し、AIが課題解決にどのように役立つかを明確にします。そのうえで、生成AI・RAG・AIエージェントなどの最新動向を初心者にもわかる言葉で説明し、AIを“業務の相棒”として捉えられるようにします。</p> <p>・研修は講義中心ではなく、実演と体験を重視します。プロンプトの工夫によるアウトプットの違い、文章生成や要約の実例など、ライブデモを交えて理解を深めます。さらに、情報漏えいや誤情報など、AI利用時のリスクと対処法も実例とともに整理します。</p> <p>・実務に活かすためには、受講者自身の業務を題材にした演習が必須です。「業務棚卸し」「文書改善」「企画書作成」など、職場に持ち帰れるアウトプットを作成し、AIがどこで効果を発揮するかを実感してもらいます。ITスキル差を吸収するため、個人→ペア→グループと段階的に取り組ませる構成が効果的です。</p> <p>また、ChatGPT、RPA、AI活用アプリなど“明日から使えるツール”を紹介し、研修後の実践につながるよう設計します。</p> <p>※体験演習については受講者のPC・ネット環境に応じて柔軟に対応可能です。</p>